

学校だより

横浜市立都岡小学校



せんだん

2月号

令和6年1月31日

大好き「わたしたちのまち」

校長 藤本 萌

校庭のせんだんの木はすっかり葉を落として、細い枝は冬の澄んだ空の下でくっきりとしたシルエットを映しています。学校のシンボルツリーが、今は工事の関係でフェンスの向こう側となり、少し寂しそうです。旧校舎の取り壊しが完全に終わって、校庭整備の段階に入ると、このせんだんの木は切らねばなりません。大変名残惜しく、だからこそ季節ごとのその姿を目に焼き付けておきたいと思います。

さて、今、4年生が総合的な学習の時間に「都岡のすてきとずっと『ともに』」という学習を進めています。きっかけは、新年度になって新校舎へ引っ越し、旧校舎とお別れしたこと、せんだんの木やあすなろ池も含めて自分たちにとって思い出深いものがやがて無くなってしまふことを惜しみ、都岡小のすてきな思い出やよさを、次の世代に伝えていきたいという思いを子ども達がもったことだったようです。4年生の子たちは、まず、昨年度までのことを知らない1年生を「旧校舎ツアー」に案内しました。さらに学習は広がって、今は学校の歴史や生息する生き物、植物、行事や校歌の素晴らしさ、そこに関わる人々をグループに分かれて調べています。

また、6年生も、総合的な学習の時間を使って「都岡笑顔プロジェクト」という活動に取り組んでいます。卒業を控えて、都岡小で自分たちが学んできたことや育ってきたことを振り返る中で、学校の中だけではなく地域の素晴らしさ、自分たちを取り囲む人々への感謝を伝え、未来につなげていくというねらいをもって「地域のよさを発信する番組づくり」をすることにしました。横浜ケーブルビジョン株式会社（YCV）の米永さんを招いてプロの番組作りについて出前授業を行っていただくなど、積極的に取り組んでいます。出来上がった動画は、3月2日（土）の都岡地区センター「キッズフェスタ」で発表する予定です。

そのほか、2年生は生活科の学習として「つおかのピカピカたんけんたい」という単元を設定して大好きな都岡公園のことを調べ、都岡町内会前会長の浅井さんにお話を伺ったり、3年生は国語の「わたしたちの学校じまん」という学習の中で、自分の思う「都岡小のいいところ」「じまんできるところ」を考え、互いに話したり聞いたりするという活動に取り組んでいます。

このように、これほどまでに、学校や地域に愛着を持ち、「もっと知りたい」「もっと伝えたい」と学習に取り組もうとする子どもの姿があるのは、なにより歴史と伝統、そして地域の温かさ、そのものなのではないでしょうか。子ども達は感謝の気持ちをもちながら、地域社会の一員として自分たちにできること、過去を知り未来につなげていくことを考えるまでに成長しています。

このたびは、各学年の学習において、インタビューに応じていただいたり、学校にいらしていただいたり、写真を撮らせていただいたりして、たくさんの地域の方々にご協力いただきました。ここにあらためてお礼を申し上げます。教科書では学べない、まさに「生きた学習」となりました。今後も、子ども達の教育活動にお力添えをいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。